

第135回 令和7年12月2日(火)

「感」と「観」と「勘」の違いについて。」

「いまの政府の温度感が国民に伝わっていない」「スピード感をもって業務にあたってくれ」などで使われる「感」ですが、よく見かける表現です。

この場合の感は「感じ取る」や「感情を持つ」ことを指していて、心や感情、直感的に何かを感じ取る能力や状態を表します。

外部の刺激や出来事に対して、心が動き、何らかの反応を示すことを意味しているので主観的で内面的なもの、心に関連することが多いとされています。つまり「感」をつけることで「断定」ではなく「心情」に落とし込んでいるわけです。

「この作品の世界観が伝わってくるね。」「あの人の死生観には特筆すべきものがある」などの「観」。こちらは「物事を見つめる」「物事を見極める」様子や考え方を指します。自分から視点を向けてじっくり観察して、物事の本質を見抜く意識的な行動を表します。目に見えるもの、または視点や捉え方の違いに基づく考え方のことであり、自分だけの心情ではなく、外部的で、物理的な対象やその解釈など、客觀性が含まれることが多いです。

「感」よりも「観」のほうがいつ、誰が見ても共通の要素が根底にあると考えられます。

「野生の勘」「勘が当たった」などで使われる「勘」は「直感的に瞬時に判断・理解する能力」を指します。確かな根拠はないが、瞬間的・直観的に物事を感じとり、判断する力を指します。使用例として勘が鋭い、勘違い、直感、勘所などがあります。

根拠や証明はなく、経験や潜在的な感覚をもとにした反応や判断が特徴で即時性や、自分の中に宿る感覚的な判断力を表します。

まとめると「感」は感情や心の動きで主観的、内面的。「観」は物事の捉え方で客觀的、外部的です。「勘」は直感的な判断力で瞬間的、経験的になります。

最近この3つの使い分けが本当にできているのかなと思うことがあります。「外国と親近感をもって外交する」と言っている政治家も、相手方が本当に我が国に親近感を持っているのか疑わしいケースがたくさんあります。「親近感があったらそんなに関税でプレッシャーかけるかな?」など。

自分たちの心情は「感」なのかもしれません、単なる「勘」に基づいた発言のようにも聞こえてしまいます。

リーダーの「観」が見てこないのが残念です。